

105 人にきいた
「缶のお酒」のアンケート @FOODEX 2025

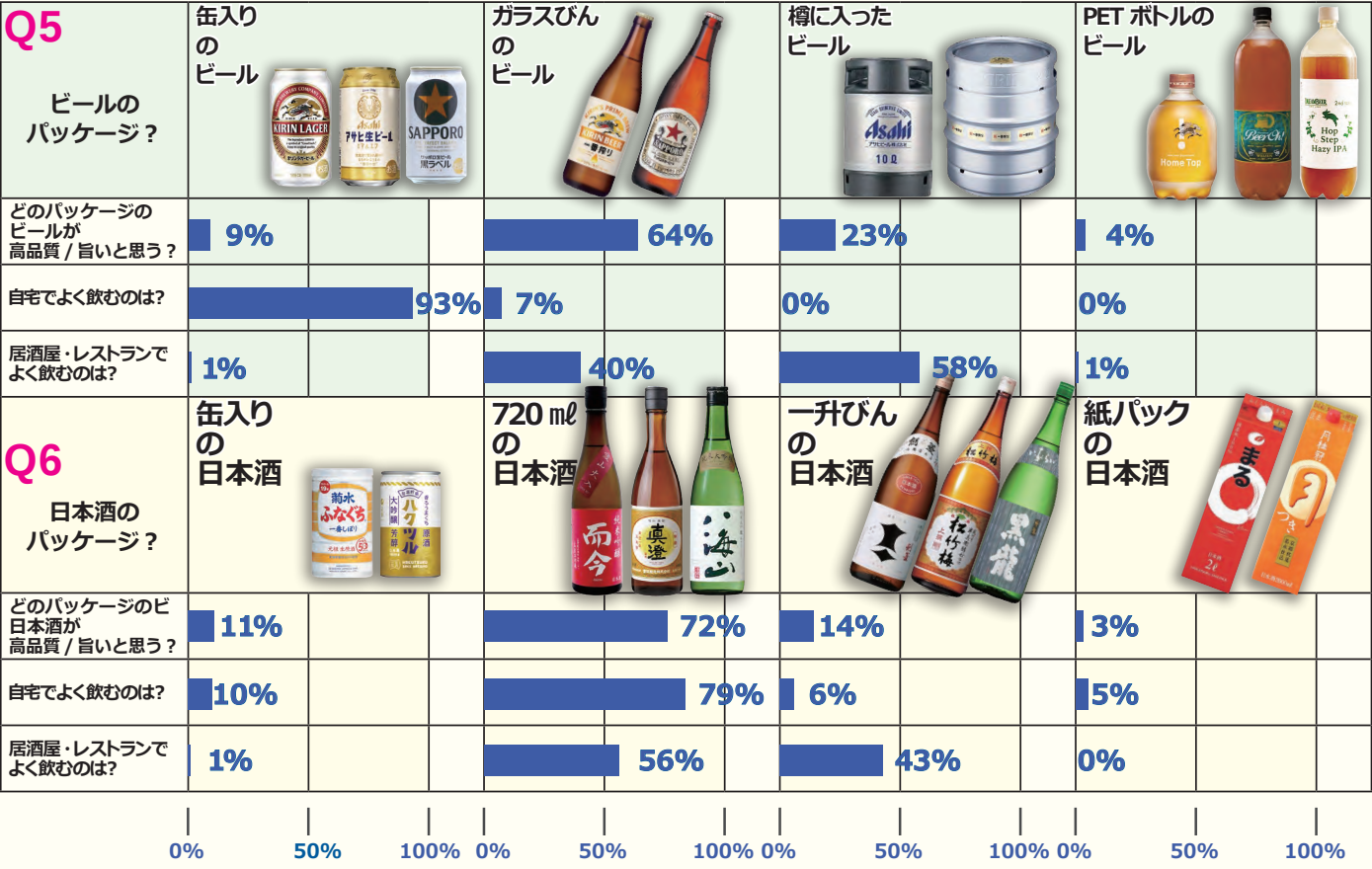
A survey about canned alcoholic beverages

●チャオ、チャオ！ 皆サン、オ元気デスカ？ シーナ・エミリです。毎年恒例で行っている、「フーデックス（国際食品・飲料展）」アンケート。今年は「缶のお酒」に関するアンケートを行いました。ビール、RTD、日本酒、梅酒など、缶入りのお酒は年々増えているように思います。 ●好きなジャンル、品質イメージ、飲むシーンなどの質問を「ビジュアル」にまとめた アンケートボード を見てもらい、該当するところに自分でシールを貼ってもらった形式。 ●4日間の展示会期間中に 105 人にこたえてもらいました。実際は、「男性・女性」「30 歳代以下・40 歳代以上」など区分して調査したのですが、ここでは全員分をまとめて 集計（比率でグラフ化）しました。
(photo & text : Sienna K. Emiri)

「缶のお酒」のアンケート@FOODEX 2025の集計(比率でグラフ化)
「一番飲みたいお酒?」「高そうなお酒?」編

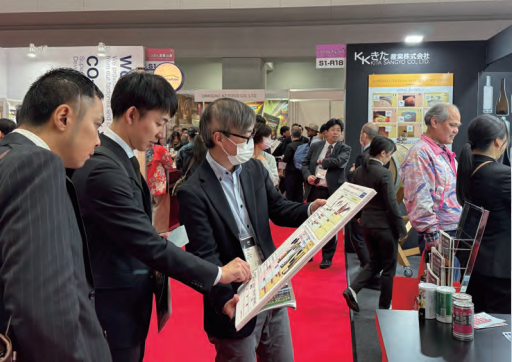


「缶」VS「びん・樽・PET ボトル・紙パック」編



●回答いただいた方のプロフィール

	日本人					外国人			総合計
	関東圏 30 歳代 以下	関東圏 40 歳代 以上	関東以外 30 歳代 以下	関東以外 40 歳代 以上	合計	European/ American	Asian/ African	合計	
男性	11 人	29 人	9 人	24 人	97 人	3 人	1 人	8 人	105 人
女性	10 人	5 人	6 人	3 人		2 人	2 人		



Q1：ハイボール vs チューハイ vs ビール vs 日本酒

「一番飲みたいもの?」は、「缶ビール (32%)」と「ハイボール缶 (31%)」がほぼ同水準のトップ。次点は「日本酒缶 (21%)」。「チューハイ缶 (16%)」は、実売はとても多いと思いますが、「飲みたいもの」では 4 位でした。「4 つの中で値段が一番高そうなイメージ」なのは「ハイボール缶 (66%)」が突出。「チューハイ缶 (1%)」は、やはり価格が安いイメージが定着しているようです。

Q2：ハイボール缶比較：

「一番飲みたいもの?」の 1 位は「クラフト (47%)」、続いて「サントリー (32%)」。クラフトの人気ぶり、サントリーウイスキーの評価の高さがうかがえます。「4 つの中で値段が一番高そうなイメージ」なのは「クラフト (81%)」でした。でも実は、写真の中で一番高いのは「山崎ハイボール缶」で 660 円です。

Q3：ビール缶比較：

「一番飲みたいもの?」は、「大手ブランドビール (42%)」と「クラフトビール (42%)」が拮抗。「ノンアルコール (4%)」は、ビール類における現在のノンアルコールのシェアに似た水準といえるかもしれません。

Q4：ノンアル缶比較：

ノンアルでは「ビール系 (42%)」が人気ですが、「チューハイ系 (29%)」「梅酒系 (16%)」「ワイン系 (13%)」も健闘。様々なノンアルが認知されつつあるのだと思います。

Q5 「ビールのパッケージ」比較：

「どのパッケージが高品質・旨いビールと思うか?」では「びんビール (64%)」が圧倒的一番。次いで「樽ビール (23%)」。残念ながら、「缶ビール (9%)」と「PET ボトルのビール (4%)」は、びんや樽に比べて品質が劣ると思っている方が多いようです。でも、実際に「自宅よく飲むのは」「缶ビール (93%)」が圧倒的。ビール類のパッケージに占める「びんビール」の比率は現在 10% 台だと思いましたが、品質についてのイメージなどを考えると、もっと見直されてもよいように思いました。

Q6 「日本酒のパッケージ」比較：

3 つの設問、「どのパッケージが高品質・旨い日本酒と思うか?」「自宅よく飲む」「居酒屋・レストランでよく飲む」とも、「720ml びんの日本酒」が 72%、79%、56%と 1 位。上に貼り付けた実際のアンケートボードの 部分を見ても、人気ぶりが伺えます。日本酒の総出荷量に占める 720ml びんの比率は現在 15 ~ 20%。輸出も 720ml が主流なので、近い将来 25% 程度になると思えます。「缶の日本酒」も品質や飲用シーンで一定の認知を得ているようです。「紙パックの日本酒」は、実際は日本酒の全出荷量の 50% 程度を占める主流容器ですが、その品質に対して好印象を持つ人は少ないのがわかります。

(text = Sienna K. Emiri + Kita 2neo)